



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

2013年度を振り返って

館長 廣瀬 信一

昨年4月1日に、当博物館は館名を「財団法人野球体育博物館」から「公益財団法人野球殿堂博物館」に変更し、新たな第一歩をスタートいたしました。関係各位、皆様方のご支援、ご協力のお陰を持ちまして、ここまで順調に運営することができました。厚くお礼申し上げますとともに、「公益財団法人」移行後の1年間を振り返りたいと思います。

まず、4月1日の開館前に、当館入口において加藤 良三理事長(当時)らによる除幕・テープカットセレモニーを挙行了しました。また、館名変更と公益財団法人への移行を周知するためプロ・アマ野球界やマスコミを中心とした約1,000件の関係先に、野球殿堂入りをされた180名の顔写真を一堂に掲載した記念ポスターを約3,000枚配布しました。東京ドームシティ構内の6ヶ所にも一定期間、このポスターを掲示し、当館のPRを積極的に行いました。



長嶋 茂雄氏、松井 秀喜氏国民栄誉賞
受賞記念展示



「オマリー家と日本野球」のオープニング・
セレモニーで挨拶するピーター・オマリー氏

5月には、長嶋 茂雄氏と松井 秀喜氏が国民栄誉賞を受賞しました。その記念に当館ではお二人のユニホームやバットなどを展示しました(期間 2013年4月26日～5月29日)。その効果もあり5月単月での入館者数は2万5千人を超えました。これは昭和63(1988)年東京ドーム開業の移転時に記録した3万8千人に次ぐ記録となりました。

6月には、長年にわたり計画はあったものの実現が難しかった、ドジャースの元オーナー・オマリー氏の特別展「オマリー家と日本野球」を開催しました。オープニング・セレモニーには多忙の中、遠路米国よりピーター・オマリー氏が出席され、併せて稲門倶楽部関係者の方々にもご参加いただき、親交を深めることができました。

夏休み期間中には、当館職員によるミニミニ実験コーナーをはじめ、様々なイベントを開催し、大勢の子供たちに野球を身近に感じてもらうことに努めました。

9月・10月のプロ野球においては、東京ヤクルトスワローズのご協力により、バレンティン選手のシーズン最多本塁打日本新記録となる56号のホームランボールを、また東北楽天ゴールデンイーグルスからは、田中 将大投手の開幕連勝・連勝日本新記録のサインボールをそれぞれご寄贈いただき、エントランスホールにて展示いたしました。タイムリーな展示は、ファンの皆様に大変喜んでいただきました。

この様に、年間を通してプロ・アマ野球界などからさまざまなご協力をいただきながら、多種多様なイベントを開催し、話題作りに努めた結果、平成25年度の入館者数は4年振りの10万台を回復するのみならず、前年比140%増の11万8,000人に達しました。

次に、組織体制についてご報告いたします。

「公益財団法人」となり、大きく変化した点の一つに「理事会」があります。以前のニュースレター(vol.22/No.4)でご説明した通り、決議には原則として本人出席が必要なことと、年間の最低開催必要数が定款で決められているため、慎重に準備し開催してまいりました。議事運営、議案策定、議事録の書式などについて、内閣府と連絡をとりながら確実な対応をしてまいりました。本年3月6日には、平成25年度第7回理事会を開催し、来年度の事業計画・収支予算(案)等の議案をご承認いただき、公益移行後1年間の理事会を滞りなく終了いたしました。

2年目を迎え、職員一同、当館の認知度をさらに高めると伴に、博物館事業を通して、野球文化の発展に寄与していく所存ですので、尚一層のご支援、ご協力をお願いいたします。



田中 将大投手
開幕連勝・連勝日本新記録達成サインボール

「12球団ファンクラブ会員様無料招待デー」開催!

野球殿堂博物館では、今年もプロ野球 12 球団の各ファンクラブ会員様へのサービスとして、「招待デー」を開催します。当日限定でユニホームの特別展示や日本シリーズ等の上映、マスコットの来館など様々なイベントを実施します。

4月9日 広島デー

スライリーが来館し、当日限定の球団歴代ユニホームの展示前で記念撮影。▶

また、4月中には下記の球団の球団デーを開催しました。
イベントのようすなどは次回ニュースレターでご紹介いたします。
なお、当館ホームページ (<http://www.baseball-museum.or.jp>) で球団デーのようすがご覧になれます。

4月20日 中日デー

4月23日 日本ハムデー

4月24日 楽天デー

4月30日 ヤクルトデー

● 5月以降の予定 ●

5月7日 DeNAデー

5月16日 巨人デー

6月7日 西武デー

6月8日 ロッテデー

6月18日 オリックスデー

7月1日 ソフトバンクデー

7月13日 阪神デー



2014年度の維持会員を募集中!



「公益財団法人 野球殿堂博物館」(旧・財団法人 野球体育博物館)は、昭和 34 (1959) 年に野球専門の博物館として開館して以来、野球を中心とした資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約 3 万点、図書・雑誌は約 5 万冊を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々に利用していただいております。

また、年 1 回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。

維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

1. 会員の特典

- (1) 当博物館発行「ニュースレター」(季刊)を送付します。
- (2) 無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
- (3) アメリカの野球博物館(クーパースタウンにある)にも無料で入館できます。
- (4) 会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
- (5) イベント情報などを優先的にご案内します。
- (6) 博物館で販売している商品が 10%引きになります。

* 新個人会員には上記の特典のほか、『野球殿堂 2012』を進呈します。(ジュニア会員を除く)

* 新ジュニア会員には上記の特典のほか、「野球殿堂博物館オリジナルピンバッジ」を差し上げます。

2. 会員の種類と会費

年会費 (4 月～翌年 3 月迄)

法人会員	1 口	100,000 円
個人会員	1 口	10,000 円

ジュニア会員 (小・中学生) 2,000 円

* ご入会月により、個人会員の初年度年会費が割引になります。

ご入会月	4 月～9 月	10 月～12 月	1 月～3 月
維持会費 (個人会員)	10,000 円	5,000 円	2,000 円

3. ご入会の方法

① 館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しただくかお送りください。

「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。

② “入会申込書”が届き次第「維持会費のご請求書」をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ 博物館 業務部 (TEL 03-3811-3600)
皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。

殿堂入りの人々を語る (43)



2012年野球殿堂入り
津田 恒実氏レリーフ

津田 晃代 (2012年野球殿堂入り 津田 恒実氏 夫人)

「炎のストッパー」いつの頃からか、夫はそう呼ばれるようになっていました。ダイナミックなフォームから繰り出される剛速球、三振に打ち取ったときの派手なガッツポーズ。そしてどうだ！と言わんばかりにバッターを睨み付ける。そんな気迫溢れる姿からそう呼ばれるようになったのだらうと思います。野球選手としての津田しか知らない人からは、とても気が強くて、荒々しくて、小さなことなど気にもしない豪快な性格だと思われていたようでしたが、実際の夫はと言うと…。家で夫は穏やかで、

繊細で、優しく、几帳面、そしてとても心配性で…マウンド上の姿とはまるで別人のようでした。

夫は何でも自分で確認しないと安心できない性格でした。寝る前の戸締り、火元の確認はもちろんのこと、目覚まし時計がちゃんと作動するか、毎晩何回もベルを鳴らして確認していました。また、クローゼットやタンスの中も自分できれいに整理していました。ゴルフやパーティーなど、イベントごとにコーディネートして「〇月〇日に着る服」とメモまで貼る用意周到さ。遠征から帰った時、夫が脱いだスーツを私がハンガーに掛けると、スラックスの左右の端が数ミリずれているだけで「落ち着かない」と言って自分で掛け直していました。

遠征やキャンプ前の荷造りなども全部自分でやってしまいます。選手の中には奥さんに任せている人も多かったようですが、主人は自分で確認しなければ安心できなかったのです。あらかじめ書き出したメモをひとつずつチェックしながら、バッグに荷物を丁寧に詰めていく姿と、「炎のストッパー」と呼ばれたマウンド上での姿とのギャップに、私は思わず吹き出してしまったことがあるくらいです。でも本人は真剣そのもの。そんな夫の行動は可笑しくも可愛い一面でもありました。夫が几帳面で心配性であったお蔭で私は随分楽をさせてもらったと思います。

また、夫は家庭に野球のこを持ち込むことがほとんどありませんでした。調子が良い時も、抑えに失敗して帰ってきても、普段と変わらない態度で家族に接してくれました。このことを他の選手や奥さんに話すと、とても驚かれます。夫は母親を癌で亡くしたことを、自分がプロ野球の世界に入り心配をかけたせいだと口にしていました。そんな自責の念からこれ以上家族に心配はかけたくないと思っていたのかもしれませんが。感情をコントロールするのは並大抵のことではなかったと思います。それは病に倒れてからも同じでした。私は今、理学療法士として病院に勤務しています。たくさんの患者さんを見てきて思うことは、「病気を受け入れる」ことの難しさです。悔しかっただらうに、もっと泣き叫びたかったらうに、夫は闘病中も自暴自棄になったり、荒れた態度をとることなど一切せず、もう一度マウンドに帰ることを夢見て頑張り続けました。なんて強い人だったのだらうと改めて思い知らされています。

10年前、義父も他界し、義姉や親戚の叔父・叔母たちと実家の片づけをしていた時、茶棚の引き出しから、夫が協和発酵に入社した際の頃、家族宛ての手紙が4～5通ほど出てきました。そこには拙い文章ではあるものの、家族ひとりひとりに対する精一杯の気遣いが綴られていました。「18歳でこんな気遣いができるなんて…」夫の優しさに涙が溢れました。

度重なる怪我や病気で波乱の多い人生でした。しかしながら、たくさんの方々に可愛がられ、助けられ、支えられ、殿堂入りというこの上ない栄誉を思いがけずいただくことができ、去年は故郷周南市の球場に「津田恒実メモリアルスタジアム」の愛称をつけていただきました。大好きな野球でこのような身に余るご褒美をいただき、感謝の思いとともに野球に出会えた幸せを、今あの世で噛みしめていることでしょう。

もの
知ってほしいこんな資料 (84)

ジャッキー・ロビンソン氏のバットと日米野球のアルバム

2013年10月、故ジャッキー・ロビンソン氏の実話を映画化した「42 世界を変えた男」の日本公開に際し、レイチェル夫人 (91歳) が来日しました。

今から58年前の1956年、読売新聞社は同年ナ・リーグを制したブルックリン・ドジャースとの日米野球を主催し、ロビンソン氏らチームメンバー30名とレイチェル夫人など関係者が、10月18日から11月16日まで日本に滞在しました。ドジャースは全国各地で全日本や巨人軍、選抜チームなどと対戦し、14勝4敗1分。ロビンソン氏も最終戦で決勝打を放つなど活躍しました。ロビンソン氏はこの年限りで現役を引退しています。



ジャッキー・ロビンソン氏使用バットと1956年日米野球アルバム

当館は、ロビンソン氏が後楽園スタジアムでの試合で実際に使用したバットを所蔵しています。試合中に折れ、当時バットボーイを務めていた田中 豊彦氏がロビンソン氏から受け取ったものです。その試合から40年近くのち、田中氏はドジャースで活躍する野茂 英雄投手 (2014年野球殿堂入り) を見てバットのことを思い出し、当館に寄贈されました。ルイビルスラッガー社製のバットで、長さ89cm、太さ 6.7cm、重さ 950gです。

この日米野球では、来日した選手や関係者へのお土産として読売新聞社から記念アルバムが贈られました。当館でも所蔵しており、サイズは縦約26.5cm、横約36cm、厚さ約4cm。金地に紅白の鶴や梅紋を配した日本的な錦織の表紙には、「BROOKLYN DODGERS GOODWILL TOUR OF JAPAN 1956 YOMIURI SHIMBUN TOKYO, JAPAN」と記されています。アルバムには、雨の中パレードに駆けつけたファンの歓迎に応える一行や、休日に観光で訪れた日光東照宮、保津川下り、広島・平和記念公園での集合写真など計33枚の写真が収められています。東照宮陽明門での集合写真では、金谷ホテルの番傘を差し、仲良く並ぶロビンソン夫妻が写っています。

当館は、これらの写真の中から夫妻が揃って写っているものを数枚選び、その複製を10月16日に巨人対広島戦 (東京ドーム) を観戦中の夫人へ直接贈呈しました。夫人によると、このアルバムはお持ちではないとのこと、57年前の二人の写真に懐かしい表情を浮かべ大変喜んで下さいました。



写真左：東照宮陽明門での集合写真を手にするレイチェル夫人
写真右：ロビンソン夫妻 (拡大)

学芸員 稲垣 真理子

コラム／博覧・博楽 (45)

秋山 哲夫（野球殿堂博物館維持会員）

野球殿堂博物館、階段を下りて行くとそこには様々な空間がある。

休憩コーナーには、テッド・タナベ氏作の躍動感のあるレリーフ。その右側に「野球体育博物館基金募集」「1988.3 サッポロビール プロ野球トーナメント」「サッポロビール協賛」の表示。

思い起こせば、1988年3月18日に日本初のドーム球場オープン。3月29日から4月3日まで記念イベント「サッポロビールプロ野球トーナメント」が行われ、その協賛会社の担当者として東京ドーム球場に一週間通い詰めた。ドーム球場とはそれからの付き合い。いま思えば、この時から博物館との出会いは運命付けられていたのだ。



右手の一番奥にこじんまりとした図書室がある。この図書室は野球に関して言えば日本で一番の蔵書数を誇る。スタッフの皆さんも野球に関して本当に詳しい。この場所が「野球の玉手箱」だ。

2006年4月20日、初めて訪れた図書室。そして2012年の秋から週に1～2回、気の向くままに図書室に入出入りさせて貰っている。もう我が家の書齋的存在だ。

目的はただ一つ。1953年12月24日、パ・リーグの事情により、海底火山噴火の如く突如として出現し、財界の支援を得ながら「独立採算経営」を目指したが、球界の思惑に翻弄され、1957年3月6日敢えなく消え去った史上最弱球団、そして時として“窓ぎわ球団”とも呼ばれた「高橋ユニオンズ」。

いま故あって、この「高橋球団」3年間の動向を検証し、球団誕生そして消滅の経緯、そこに潜む球界の思惑、そして全試合・全選手の詳細な記録を小冊子にまとめる作業をしている。

いまさら何故、高橋球団なのか。詳しくは割愛するが、きっかけは12球団トーナメント以来、懇意にして頂いていた福嶋 襄夫氏（元パ・リーグ事務局長）から届けられた「高橋ユニオンズ」に関する一連の資料であった。

この時には、気の向くままに「高橋ユニオンズ」のことを簡条書きにまとめてみようと言う気楽な考えであったが、その後の環境変化から、「高橋ユニオンズ」をこの世に残しておきたいと言う使命感を感じるようになった。

しかし、当時の球団経営に係わった関係者は殆ど鬼籍。とすれば、当時の新聞や書物が唯一の頼り。

そして記録面では日本野球機構の記録部の方々にお世話になり、球団設立や消滅の経緯に関しては、一時は住まい近くの図書館に通ったが、やはり野球に関してはこの図書室しかない。

紙が黄ばんで触れるとバラバラになりそうな60余年前の新聞。縮刷版でもマイクロフィルムでもない当時の実物の新聞。痛んではいるが温かみがあり迫力もある。また、丁寧にカバーされた60余年前の雑誌。

当時の新聞や雑誌に目を通して見ると、まるで映画を観ているようにその光景が浮かび、一人でほくそ笑んだり、失笑したり、思わぬ発見に思わず声を上げることもしばしば。

パ・リーグ変遷の歴史は、まさに球界のドロドロした思惑そのものであり、推理小説を読むが如しである。また、ゲーム中に停電での試合中断もあり、時代を感じさせる。高橋ユニオンズは最弱球団ではあるが、懸命に戦った様子は伺える。小説よりも奇なり、の世界が広がる。

今年は高橋ユニオンズが創設され満60年にあたる。そして細々ではあるがユニオンズOB会も続いている。早く小冊子を完成させたい焦りと、もっと詳しく調べたいと思う心が葛藤を続けながら、「野球の玉手箱」を開けに野球殿堂博物館、図書室に通う日々である。

📖 こんにちは図書室です 📖

昭和9 (1934) 年 日米野球パンフレット



今年はベーブ・ルース率いる米国代表チームが昭和9 (1934) 年に来日してから80年になります。今回は当時の日米野球のパンフレットをご紹介します。

「日米大野球戦」と名前がついているこのパンフレットは、表紙にコニー・マック (左上切り抜き)、ベーブ・ルース、ジミー・フォックス、ルー・ゲーリッグ (左より) の写真がデザインされており、サイズは縦が約27cm、横が約19cm、総ページ数は34ページとなっています。

また、このパンフレットには出版日時の記載がないため、いつ発行されたか正確にはわかりませんが、パンフレットを読むと推測ができます。2ページに神宮球場の試合日程が掲載されていますが、地方で行われる試合の日程や、対戦した全日本チームメンバーは“近く発表”となっています。読売新聞紙上での米国代表チームメンバーの発表は9月21日で、全日本チームの第一次メンバーの発表が10月5日ですので、9月21日から10月5日の間に出版されたと考えられます。

中を開くと全権団長のウィリアム・ハーリッジを筆頭に20名の名前が一覧になっています (表参照)。表紙の裏部分には18名の顔写真があり、ゴメツツ、ルース、フォックス、ゲーリッグが中央に配置されています。

4ページに当時の岡田 啓介内閣総理大臣から、5ページはグルー米国大使、6ページには大隈 信常侯爵の挨拶があり、7ページから26ページまで1人1ページを使ってメンバーを紹介しています。このパンフレットに掲載されているメンバーと、来日したメンバーは入れ替えがあり、1964年アメリカ野球殿堂入りのヘンリー・マナシは来日しませんでした。日米で野球殿堂入りの8名を擁するチームの来日は、日本野球界に大きなインパクトを与えました。

このパンフレットは当館ホームページの「図書室」→「デジタルアーカイブ」からご覧になれます。どうぞご利用ください。



パンフレットに掲載されている世界最強野球団 一覧

	名	前	当時の所属	備考
全権団長	ウィリアム・ハーリッジ	William Harridge	アメリカンリーグ総裁	来日せず 1972年アメリカ野球殿堂入り
顧問	トマス・シャイブ	Thomas Shibe	フィラデルフィア・アスレチックス副会頭	来日せず
監督	コニー・マック	Connie Mack	フィラデルフィア・アスレチックス監督	1937年アメリカ野球殿堂入り
助監督	アール・マック	Earle Mack	フィラデルフィア・アスレチックス助監督	来日せず
投手	ヴァーノン・ゴメツツ	Lefty Gomez	ニューヨーク・ヤンキース	1972年アメリカ野球殿堂入り
投手	アール・ホワイトヒル	Earl Whitehill	ワシントン・セネターズ	
投手	クリント・ブラウン	Clint Brown	クリーブランド・インディアンス	
投手	ルイス・ニューサム	Bobo Newsom	セントルイス・ブラウンズ	来日せず
捕手	チャーリー・ベリー	Charlie Berry	フィラデルフィア・アスレチックス	来日せず
捕手	モリス・バーグ	Moe Berg	ワシントン・セネターズ	
一塁	ルー・ゲーリッグ	Lou Gehrig	ニューヨーク・ヤンキース	1939年アメリカ野球殿堂入り
二塁	チャールズ・ゲリンジャー	Charlie Gehringer	デトロイト・タイガース	1949年アメリカ野球殿堂入り
三塁	ジミー・フォックス	Jimmie Foxx	フィラデルフィア・アスレチックス	1951年アメリカ野球殿堂入り
遊撃	エリック・マクネーア	Eric McNair	フィラデルフィア・アスレチックス	
遊撃	アラン・ストレンヂ	Alan Strange	セントルイス・ブラウンズ	来日せず
外野	ベーブ・ルース	Babe Ruth	ニューヨーク・ヤンキース	1936年アメリカ野球殿堂入り
外野	ヘンリー・マナシ	Heinie Manush	ワシントン・セネターズ	来日せず 1964年アメリカ野球殿堂入り
外野	アール・アヴアリル	Earl Averill	クリーブランド・インディアンス	1975年アメリカ野球殿堂入り
外野 (兼助監督)	フランク・オドウル	Frank O'Doul	ニューヨーク・ジャイアンツ	2002年日本野球殿堂入り
審判	ジョン・クイン	John A. Quinn		

はパンフレットによる

司書 茅根 拓

野球殿堂博物館 トピックス (2014年2月～4月上旬編)

【2月22日】
イチロー選手 日米通算4000本安打達成記念展示！



イチロー選手の日米通算4000本安打達成を記念し、イチロー選手が在籍した3球団(オリックス、マリナーズ、ヤンキース)のユニホーム等をエントランスホールで展示しています。

【3月26日】
ニュージーランド野球連盟会長、
インドネシア野球・ソフトボール連盟会長が来館！



ニュージーランド野球連盟CEOのRyan Flynn氏、およびインドネシア野球・ソフトボール連盟会長のSyahrir Nawier氏と関係者ご一行が来館し、館内を見学されました。

【3月29日、30日】久保田名人のバット製作実演を開催！



ミズノテクニクス株式会社の久保田 五十一名人によるバット製作実演を開催しました。久保田名人は本年4月の引退を発表しており、今回は引退直前のイベントとなりました。バット製作実演に加えて、バット製作にまつわる貴重なお話もご披露していただき、ご来館のお客様に喜んでいただきました。また、30日には、現役時代に久保田名人のバットを使用していた篠塚 和典氏が見学され、特別に篠塚氏モデルのバットを削って頂きました。

博物館からのお知らせ

▶ 新任役員

理事長 熊崎 勝彦氏(日本プロフェッショナル野球組織コミッショナー)
理事 木下 宗昭氏(公益財団法人 全日本軟式野球連盟会長)

▶ 理事会

3月6日(木)、都内のホテルにおきまして2013年度第7回理事会を開催し、次の事案が承認されました。

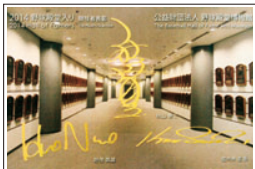
- ・理事長選定の件
- ・入館料改定の件
- ・平成26年度事業計画案および収支予算案の件 など

▶ 販売中！

● 2014 殿堂入り特製ポストカード 500円(税込)

平成26年野球殿堂入りの野茂 英雄氏・秋山 幸二氏・佐々木 主浩氏のサイン(箔押し)が入った記念ポストカードを発売しています。

(三氏のご紹介文付)
今年の殿堂入りの記念にぜひお買い求めください。



● 2014 グリーンリストバンド 540円(税込)

今年のリストバンドは、プロ野球80周年を記念したデザインになっています。

売り上げ金の一部は、植樹活動「プロ野球の森」に使用させていただきます。ぜひグリーンリストバンドをはめてご観戦ください。



※画像は販売用のデザインです。選手着用デザインとは異なります。

● 博物館のご案内

場 所 東京ドーム21ゲート右
開館時間 3月1日～9月30日 AM10時～PM6時
10月1日～2月末日 AM10時～PM5時
(入館は閉館の30分前まで)
入館料 大人 600円(500円) } ()は
高・大学生 400円 } 20名以上の団体
小・中学生 200円(150円)
65歳以上 400円
※平成26年4月1日より入館料を改定しました。
休館日 月曜日
(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館)
年末年始(12月29日～1月1日)

《5月・6月・7月の休館日》

5月 12日・19日
6月 2日・16日・23日・30日
7月 7日

● 編集後記 今年も「12球団ファンクラブ会員様無料招待デー」を開催いたします。4月中に行われた中日、日本ハム、楽天、ヤクルトの4球団は締切りの都合で、今回ご紹介できませんでしたが、次号のニュースレターでご紹介いたします。また、球団デーの予定は当館ホームページでも掲載していますので、ぜひご覧ください。ご来館をお待ちしています。

野球殿堂博物館 Newsletter 第24巻 第1号

2014年4月25日発行(年4回発行)

編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館
(旧・財団法人 野球体育博物館)

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61
Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369
<http://www.baseball-museum.or.jp/>



リレー随筆 (56)

高校“五”天王と研修制度

競技者表彰委員会委員 長浜 喜一 (東京スポーツ新聞社・大阪スポーツ)

かつて阪神タイガースに在籍した、ある打撃投手の波瀾万丈の半生をご紹介したい。名前は青雲 光夫さん。鳥根 崇・平田高を卒業し、大学に籍を置いて2年後の1976年11月にドラフト外で阪神に入団した。

本人によると、高校時代はストレートで三振を奪うタイプの右腕だったことから「山陰の江川 卓」の異名をとっていたとか。また、同い年の銚子商・土屋 正勝、土浦日大・工藤 一彦、横浜・永川 英植、鹿児島実・定岡 正二が高校四天王と呼ばれ、脚光を浴びていたことから「オレを加えて“五”天王よ」と胸をグイ。実際のところはどうだったのかといえば、阪神で同じ釜の飯を食った四天王の一角、工藤氏は青雲さんについて「流れるようなフォームからキレのいいボールを投げる。素質を感じさせるピッチャーだった」と振り返っているから将来を嘱望される投手だったことは間違いない。

だが、たび重なる肩、肘の故障に泣かされ、一軍登板ゼロのままわずか3年でユニホームを脱ぐ。引退後は地肩の強さを買われて打撃投手に転身。主軸の岡田 彰布と相性がよく、専属パートナーとなって「オカダの恋人」と呼ばれた。選手の面倒見もよく、和田 豊現一軍監督や平田 勝男現二軍監督、昨季限りで引退した桧山 進次郎氏らに打撃投手の視点から熱心なアドバイスを送った。「アオちゃん」「クモさん」。青雲さんは多くのトラ戦士たちに慕われていた。

二度目の試練は2000年オフ。21年間投げ続けて悲鳴を上げ始めていた肘が、ついにバンクした。スコアラー、マネージャー、用具係…。裏方として引き続きタイガースに貢献したいと希望したものの、用意されたポストはなかった。

家族を養うため、青雲さんは覚悟を決める。阪神のキャンプ地・高知県安芸市で知り合い、地元でお好み焼き店を営む友人宅に泊まり込んで3か月間の修業を積んだ。そして免許皆伝となると、愛称の“雲”にちなんだ鉄板焼き店「クラウド」を西宮市内にオープン。阪神監督だった岡田氏をはじめ、OBやチーム関係者が毎晩のようにのれんをくぐった。

しかし、味は抜群でも立地条件に恵まれず、客足はしだいに遠のき数年で看板を下ろす。青雲さんは再びキャンプ地の友人を頼り、今度は安芸に定住。お好み焼き店「青ちゃん」をオープンするが、繁盛するのはキャンプ期間中の2月だけとあっては時間の問題だった。現在は旧知の仲のチーム関係者ですら連絡が取れず、所在もはっきりしないという。

今春、大勢のプロ野球経験者が高校、大学で学生を指導する資格を回復した。プロ側とアマ側それぞれが開く研修と、日本学生野球協会の適正審査のみで指導資格が取得できる。昨年7月に設けられ、要件が大幅に緩和された画期的な新制度に、待ってましたと堰を切ったように約480人ものプロ経験者が二つの研修を受け、3月末までに435人が認定された。

そのうちの一人、阪神時代に青雲さんのボールを山ほど打って打撃を磨いた金森 栄治氏(西武—阪神—ヤクルト)は、4月1日付で金沢学院東高(石川県)の監督に就任。「ふるさとで高校野球の監督を務める機会を得られ、大変うれしい」と万感のコメントを發した。

実は、阪神退団が決まって今後の進路を模索していた時、青雲さんはこう話していた。「本当は鉄板焼き屋じゃなく、田舎に帰って野球を教えたいんやけどな」。この時点ではまだ体力、気力も充実し、環境も整っていた。だが、そのために教員免許を取得し、教壇に立つことは現実問題として不可能だった。

長い冷戦、遅かった雪解け。プロ・アマの歩み寄りがもう少し早く実現していれば、青雲さんのささやかな夢は大輪の花を咲かせていたかもしれない。